



暮らしとこころの相談会

3月28日(火)29日(水)、広島駅南口エールエール地下広場で、広島弁護士会主催、反貧困ネットワーク広島、法テラス広島、臨床心理士会、広島県、広島市の共催にて「暮らしとこころの相談会」を開催しました。



1日目は、面談55件電話9件、2日目は、面談73件電話2件、2日間合計で面談128件、電話11件、全体で139件の相談が寄せられました。3月末とはいえ、日の光が当たらない地下広場は冷え込んでいましたが、次々と寄せられる相談対応に忙しく、また、イベントに初めて参加された莓一笑(いちごいちえ)さんのバンド演奏にほっこりしたりしているうちに、あっという間に過ぎた2日間でした。

今回の相談会は、報道機関の取材も多くありました。中国新聞、読売新聞、中国放送(RCC)、テレビ新広島(TSS)などの各社です。

RCC報道部の栗栖千尋記者から、この度の取材を通して、以下のようなコメントを頂きましたので、掲載します。

「専門家に相談するという事は「特別なこと」だという印象を持っていたため、不特定多数

の人が行き来するオープンな会場に驚きました。こっそり相談したいのでは…と思ったのが最初の印象です。しかし、実際は一見普通の人たちが気軽に立ち寄っているようで、『普通』の中に暮らしにくさは隠れているように感じました。社会が複雑化するだけ人が抱える問題も複雑化していて、悩みを相談すること自体が簡単ではないのかもしれませんが、それだけに、ふらっと立ち寄れる場で幅広い悩みを相談できる環境は自分の「暮らしにくさ」に気づき、解消する大きな一歩を後押ししているように見えました。」

報道機関による情報発信は、私たちの取組を進めて行くうえで非常に大きな力になります。この度の相談会を取材報道していただいたことにつき感謝し

つつ、私たちは貧困問題についてしっかりと発信を続けていくこと、報道機関の皆さんにはこれからも貧困の問題に関心を持って取材報道し続けていただくことで、ひいては、行政を動かし、国を動かし、社会の在り方を変える原動力にしていきたいと思えます。(T)



「素晴らしい歌声の莓一笑さん」

2017年3月相談会集計結果

【性別】男性57人、女性73人、不明9人、合計139人。

【年代】20代1人、30代12人、40代14人、50代26人、60代34人、70代25人、80代8人、不明20人。

【知的媒体】1位42人通りがかり、2位18人テレビ、3位15人チラシ、4位12人法テラス、5位10人新聞、その他、生健会やくらさぽ等紹介。

【相談内容】借金25人(うち保証6人ヤミ金2人)、相続・相続放棄13人、生活苦10人、労働9人、賃貸借8人、生活保護7人、損害賠償7人、不動産7人、離婚7人(うちDV2件、養育費2件、氏の変更2件)、こころの悩み6人、年金5人、成年後見4人、住まい3人、介護3人発達障害に関係する相談や墓所の相談、子どもにお金を管理されているという高齢者からの相談もありました。

もやい理事長 大西連氏の講演を聞いて

去る2月25日、反貧困ネットワーク広島主催の春の講演会で、NPO自立生活サポートセンター『もやい』の理事長、大西連氏の講演を聞く機会を得た。大西さんは若い。若い人の特徴は『早口』である。大西さん自身が言っているので間違いはない。この早口に年寄りの私はなかなかついていけない。統計など一生懸命にメモをとるが、書いた字が読めない。困ったもんだ。



『もやい』の結成の経緯を聞いて驚いた。ホームレスの人が住居を確保する時の連帯保証人に、『会』がなるというのだ。常識的に考えて、それで良いのかという疑問を抱いた。

早口の大西さんの、唯一思いやりと思われる『旅人と赤ん坊の寓話』という話を聞かせてもらった。年寄りについてこれない人に対し、『これだけでも憶えて帰ってね』という心温まる話であった。

『旅人と赤ん坊の寓話』

『ある日、あるところに旅人がいました。すると、近くの川に赤ん坊が流されてきました。驚いた旅人は川に入って助けました。すると、また、別の赤ん坊が流されてきました。よく見ると次か

ら次に流されてきています。旅人は近くにいた人に応援を頼んで救出しますが、切りがありません。そこで、旅人は、その場を人に頼んでおいて、自分は上流に駆けて行って、その原因を突き止め、原因を取り除く努力をしました。』という内容であったように思う。この話は、笑い話のようでもあるが、私たちの運動に対して、鋭い警告を行っているように思った。

私は、現在、『生活と健康を守る会』という団体に所属し、日ごろ貧困をなくす運動を行っている。しかし、とかく陥りやすいのが『個別救済』である。『個別救済』が悪いわけではありません。しかし、そこで止まってしまったのでは『自己満足』に終わるだけで運動に繋がらない。私たちの組織をみた時、全国的には地域で会が誕生したり消滅したりを繰り返しているところもある。少なくないところで消滅している。その原因が、スーパーマン的な人が登場し、その人の奮闘で会が誕生。しかし、その人の病气や死亡によって、後継者がおらず消滅する。この繰り返しをしているように思う。

『貧困をなくす』ということは、個別の取り組みでは決して解決しない。しかし、頭では理解しているつもりでも、なかなか思うようにいかないのが現実である。常に原点に立ち返りながら、しかも、粘り強く運動をしていくことの必要性を改めて教えられた集会だった。(K)

広島市就労支援要請

1月31日、反貧困ネットワーク広島は広島市中区生活課会議室で広島市の就労支援の改善を求める要望書を提出しました。

要望の内容は、①就労訓練事業の実態を教えてください。(利用者数、事業所数など)②生活困窮者自立支援制度の就労訓練事業を、生活保護受給者が利用できるよう、生活保護受給者やケースワーカーに周知徹底してください。③生活保護受給者が認定就労訓練事業を利用する際には、福祉事務所から交通費の支給をしてください。④認定就労訓練事業所から支給された交通費を収入認定しないでください。これらの4つでした。

①については認定就労訓練事業所の数が6つ、利用者数はいない、という回答でした。②、③、④についてはそれぞれ前向きな回答が得られました。

当日は生活保護を利用しながら就労支援を受けている方々が参加して、広島市の就労支援について意見を述べました。「ケースワーカーから訓練事業の説明は全然なかった」「採用がきまった

が、身元保証人がおらず就職できなかった」「ケースワーカーは就職しろと繰り返すだけで何もしてくれない」などの声が出されました。



今回、生活保護と就労訓練事業の関係がはっきりし、交通費や収入認定について前向きな回答が得られたことは成果だったと思います。一方で、生活保護利用者に対する就労支援の現状を聴き、まだまだ不十分だということを実感しました。

私たちは、日ごろから生活困窮者とかかわる中で、貧困をなくすためには、十分に生活できる賃金と安定的な雇用の場が必要なことを痛感しています。

今後も、就労支援を受けている人たちの声を聴きながら、実効性のある就労支援を行うためにどんなことが必要かを調査・分析し、広島市に要望を出していきたいと思えます。(Y)



ほっとサロン活動報告

昨年の11月からほっとサロンでお世話をする
ことになって、はや4ヵ月がたちました。

月・水・金の週3日、10名前後の方々が来所
されます。最初は、いろんな方々が来られるの
で、お名前を覚えることがまず大変でした。あ
と、何をどう動けばいいのか、月一回のお食事会
をどうすればいいのかと、大人数の食事を作った
ことがない私はうろたえるのみです！なので、未
だに周りの方々の助けをかりながら、頼
りっぱなしの私です。

1時から4時までの3時
間、作業がある時は皆さん
生き生きとお話しなが
ら楽しそうに和気あいあ
いと作業をされます。頼
み事をしても嫌な顔される
ことなく率先してやってく
ださい。作業が何もない時
は残念そうですが、コーヒーを飲み
ながらお菓子を食べてながら、いろんな話題で
話が盛り上がり笑い声が絶えないサロンです(軽
食がある時は大変喜んでくださいます)。話題の中
には、大変辛い経験をされたこととお話しして
くださる方もいらっしゃいます。私には想像できな
ような苦労話を聞かせてくださる方もいらっ
しゃいます。今でも不安で大変な生活をされて
いる方もいらっしゃいますが、サロンの中では、辛
さを微塵も見せずに笑顔でお話ししてくださいま
す。



皆さんと一緒に話ししていると、とても勉強
させられる事が多くあります。私自身もう還暦を
過ぎていてもかかわらず、あまりにも知らない
ことの多いこと。生活保護についてもその一つで
す。生活保護に対する知識がほとんどなく、まし
て、このような支援を行う団体があることなど全
く知りませんでした。世間のニュースで、生活保
護を申請しても受け付けてもらえず餓死されたと
か、介護離職で貧困になり申請したにも関わらず

受け付けてもらえず母親をてにかけて
最後は自殺されたという悲惨とい

う言葉では言い表せない出来事
を見聞きした事があります

が、このような方々は、こう
いう支援団体があることを知
らなかったのかなと、残念で
なりません。まだまだ、この
ような支援団体の存在を知らな

い方が数多くいらっしゃると思

います。少しでも多くの方に知ってい

だいて安心して暮らせる場所作りのお手伝いが少
しでも出来ればよいと思うようになりました。

ほっとサロンに行くとき、誰かと出会い、仲間が
できて、お話ができて、誰かと触れ合うことが出
来る…名前のようにほっとできる、そういうサロ
ンがこれからも続いていくように少しでもお役に
立てれるように頑張っていきたいと思っています。
まだまだ未熟ではありますが、よろしく願
いいたします。(T)

共同募金のお礼

共同募金社会課題解決プロジェクトへのご協力をいただき、誠にありがとうございました！

おかげさまで目標額を達成しました！

平成28年1月1日から3月31日まで、124件の個人団体から、総額108万8990円を募金いただきました。

募金していただいた皆さんのお気持ちに感謝するとともに、大切に使用させていただきます。

食品や衣類寄付のお礼

2月の広島南ロータリークラブ例会で理事長秋田が卓話「広島における貧困の現状」を担当させていただいた縁で、3月、3回に分けて広島南ロータリークラブ会員の皆様にお米、保存食、衣類などを寄付いただきました。

卓話内容は同会会報にも掲載いただき、当NPOの取り組みについて知らせる貴重な機会となりました。

その他、会員その他の皆様からもお米、家電製品などご提供いただきました。ありがとうございました。

☆定期総会のご案内

日時：5月20日（土曜日）13：30～

場所：弁護士会館2階大会議室

基調講演：「住まいの貧困～住宅支援の取組み内容とその課題」

講師：NPO法人福岡すまいの会 理事長 横溝 高廣氏

定期総会終了後、弁護士会館で交流会を予定しています。

今後の相談会の予定（いずれも会場は広島駅南口地下広場、時間10：00～17：00）

2017年 6月13日（火）・14日（水）まちかど生活相談会（反貧困ネット主催）

2017年 9月 5日（火）・6日（水）暮らしとこころの相談会（弁護士会主催）

2017年 12月 5日（水）・6日（木）年末年越し相談会（反貧困ネット主催）

2018年 3月27日（火）・28日（水）暮らしとこころの相談会（弁護士会主催）

相談会イベント募集のお知らせ

相談会会場は、イベント広場となっているため、両日とも、昼12：00～12：30と16：30～17：00の1日2回、イベントを行っています。舞踊、楽器演奏、歌、ダンスなど、出演して下さる方（団体、個人問わず）を募集しています。皆様の出演協力をお待ちしています。



これまでのイベントの様子

会費・寄付振込先

正会員（個人）年会費 2,000円

正会員（団体）年会費 5,000円

賛助会員（個人）年会費 5,000円

賛助会員（団体）年会費 10,000円

広島銀行 白島支店 普通3235401 反貧困ネットワーク広島

郵便為替 01390-1-98338 加入者 反貧困ネットワーク広島

お願い

当会では、お米、インスタントラーメン、そうめんなど保存食やタオルなどの寄付も随時おまちしています。

また、パジャマ又はスウェット上下や冬用の男性用コートを必要とされる方も多いため、不要な物（清潔であれば中古でも結構です）があればご寄付を御願いたします。

寄付食材お届け先：〒730-0051 広島市中区大手町5-16-18PALビル4階 反貧困ネットワーク広島

シェルター開設をした2009年5月以降の、シェルター11室利用者のべ人数（2017年4月1日現在）

年代	男性	女性	合計
10代	7	15	22
20代	81	45	126
30代	161	41	202
40代	188	57	245
50代	164	39	203
60代	98	27	125
70代	37	11	48
80代	6	4	10
不明	16	28	44
合計	743	262	1025

世帯内訳：単身916名夫婦31名親子57名

NPO法人 反貧困ネットワーク広島 事務局 相談専用電話

広島市中区東白島14-15NTTクレド白島ビル7階

090-4890-1579

広島総合法律会計事務所内

平日10:00～17:00

電話：082-227-8181 FAX：082-227-1200

